

障害者支援施設における DX (Digital Transformation) の推進、ICT 技術の活用について

社会福祉法人富山県社会福祉総合センターの運営する障害者支援施設高志ライフケアホーム（以下、「高志ライフケアホーム」という。）では、肢体不自由者を対象とした障害者支援施設の中でも、富山県が 100% 出資により設立された法人が運営する公的な施設としてデジタルトランスフォーメーション（以下、「DX」という。）や ICT 技術を活用した障害者支援施設を目指し、令和 6 年度から ICT 機器の導入に取り掛かり、ICT 基盤の整備を進めています。

介護分野では「科学的介護情報システム（LIFE）」の運用が令和 3 年度からスタートし、介護記録システムを中心としたシステムの導入が進んでいるところですが、障害福祉分野においては、介護分野の「科学的介護情報システム（LIFE）」に代わるものがなく、介護分野に比べると DX や ICT 技術の活用が浸透していないのが現状です。

こういった制度的背景から、政策的にも福祉施設への DX や ICT 技術の浸透を促進していることに鑑み、これらの技術を取り入れるとともに、技術を応用して様々なシステムと併用・連携することで、障害者にとって質の高い支援が受けられ、かつ職員は負担軽減を図ることで「生活支援員等専門職が担うべき業務」にタスクシフトすることが可能になると考えています。

障害の多様化や複雑化が進む中での支援の専門性の担保と、人材不足により将来必要と推計される福祉人材の確保が危ぶまれる現代において、これらを両立するツールとして積極的に DX や ICT 技術を取り入れることで、今後も政策課題に取り組んでいきます。

○ 令和 6 年度の導入実績

令和 6 年度は、厚生労働省の補助金「障害福祉分野の ICT 導入モデル事業補助金」と、「障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業（ロボット等導入支援）」の 2 つの補助金を活用し、スマートフォン端末及びヘッドセットと見守り支援体動センサーを導入しました。

○ 今後の活用方法

令和 6 年度に導入した機器については、端末にアプリを導入することにより、職員間の連絡通信手段として利用するほか、見守り支援体動センサーの通知を受けられる状態にすることで、一つの端末に情報を集約することにより、支援を行いながら複数のタスクをこなせる状況を構築するとともに、職員間のコミュニケーションの活性化を図り、生活支援員、看護師、リハビリ療法士等の多職種連携による支援の質の向上を図りたいと考えています。

○ DX・ICT 技術活用による今後の展望

DX・ICT 技術活用は、まだ取り組み始めたばかりですが、今後は支援記録のシステム化をはじめまだ未着手の分野における基盤整備にも積極的に取り組みたいと考えています。